平成 29 年度　（仮称）岐阜市未来ビジョン民間懇話会　活力分科会　議事録　概要

【日　時】平成３０年２月１４日（水）１４時００分～１６時００分
【場　所】岐阜市役所本庁舎低層部４階　全員協議会室
【出席者】福士秀人活力分科会長、塩見善彦分科会員、須賀敦士分科会員、
土屋雅代分科会員、西垣信康分科会員、別宮理恵分科会員、藍石分科会員

１　開会

２　分科会員紹介

◆事務局より分科会員の紹介

３　分科会長あいさつ

・今日は活力についての分科会ということで、皆さんから活発な意見がいただければと思いますので、よろしくお願いします。

４　報告

◆事務局より民間懇話会全体会概要（主な意見）を資料②に基づき説明
◆事務局より民間懇話会ひと分科会概要（主な意見）を資料③に基づき説明

５　議事

・分野ごとの行政課題、推進すべき取組について
◆事務局より資料④（働く場、活力、観光・交流）に基づき説明
◆意見交換

〇分科会員
・具体的に働く場という点でいくと、特に今は女性のシニア層を使うというのが、人口減少が予想される中で非常に重要なことは十分認識しているところです。がんなどの病気になっても治療や仕事を両立して柔軟な働き方を実現する職場環境づくりという、こういった視点というのはなかなか今まで理解がありませんでした。ふと自分の職場を見たところ、がん治療等を伴う特別な休暇制度を作りなさいと言われていませんが、3,000 人ぐらいの社員がいる中で、実はがんになる人間もこの頃は非常に多くなってきています。医療の発展とともに、治癒して元気になって戻ってくる人もいる現状を踏まえると、企業として制度上はなくても就業規則等をうまく活用しながら、取り組みをしていくということです。一方で中小企業では実際に働く立場としてなかなか厳しいものがあるということをお聞きします。やはり国の働き方改革等々に準ずるようなことで、小さな行政単位から県や国へ逆に働き掛けをしていくことが、行政や私たちにも必要と感じています。

・産業という部分では、岐阜市は従来、製造業が１番の産業でしたが、今はサービス業が１番です。市として主要産業がないという中では、新しい産業の創出という視点が出てくるのも当然であります。東海環状自動車道の開通で岐阜市にも新たなインターチェンジができると、このインフラの整備を活用した工業の集約化のような視点というのは確かに必要だと思います。一方、観光分野にも関係するNPO団体と連携協定を結んでいます。その団体は川原町というコンテンツにさらに岐阜市の伝統産業である和傘や水うちわを観光客に体験させる、見せるという視点で人を呼び込んでいます。その体験から岐阜市の産業の紹介をするような取り組みをしています。産業の活性化にまでは難しいと思うのですが、地域のアイデンティティ、岐阜市のイメージ戦略としても伝統産業の和傘・ちょうちん・水うちわなど、観光とマッチさせてやっています。我々も少しでも岐阜市の伝統として残していくという視点での取り組みを応援しています。伝統産業を活性化というよりも、むしろ未来永劫残していくという取り組みです。こうした体験型が良いと評価されていますので、これらを観光とリンクしながら進めていくことが非常に良いと思います。行政も一緒にやっていただきたいと思います。
・例えば観光という部分でスポーツイベントの活用の観点があります。FC岐阜がプロスポーツとして出てきていますが、バスケットのプロ化もありますし、マラソンにも力を入れて清流マラソンへの積極的な参加などで地域貢献をやっています。スポーツイベントによる集客で、参加者が岐阜市にお金を落とすことになります。金華山を見に行く、長良川を見る、鵜飼いを見るというような滞在型となるコンテンツを入れていくことが必要だと思います。今あるスポーツのコンテンツの活用ということを民間と行政と手を携えてやれると非常に良いのではないかと思います。

〇分科会員
・「災害に強い都市岐阜」を一番の根本に考えます。災害があったときに困らない、助け合える、そのときに役立つための産業を今から考えます。新しいかたちの仕事にもなり、会社もできて、そこに雇用も広がる、そういう分野に広がっていくと考えて、長い意味で災害に強い都市を中心に考えていけたらと思います。
・これからの農業が衰退していかないように私たちの大切な問題としてもっと知恵を出し合い、維持していくことがすごく大事だと考えています。岐阜市民が健康に一生を過ごすためにも、やはり安全で心配のないものを食べなくてはいけないということで、本市の農業がなくならないように、食を支えたいという若い人たちの力を集約できるような知恵を行政が中心になって考えてほしいと思います。
・FC岐阜は現在、岐阜県で唯一のプロチームです。J2のプロチームを持っていることはすごいことだと思います。自分の応援しているチームがあると応援に行きますので、県外から観光目的以外の人たちが来ているのです。たくさんの人たちが岐阜に来て、「金華山に登ってみようか。鵜飼いがあるのなら見てみようか。」と、観光にもつながっていきます。外から来てくれた人たちが、次もまた来たいと思うようなチャンスがあるものは大いに活用していくべきだと思います。県外の人たちが岐阜市の良さを知ってくれるチャンスです。いろい

ろなところに新しいものが落ちているのではないかと大いに興味を持って、チャンスを見つけていく力がこれからはすごく大事になるのではないでしょうか。プロのバスケットができてくるのでしたら、何回も訪れてくれることで、観光や産業、新しい仕事の創出にもつながることを認識して進めていくと面白いと思います。

〇分科会員
・活力のリニア中央新幹線や東海環状自動車道の西回りルートの開通に伴う企業誘致、雇用の創出ですが、そのとおりだと思います。西回りルートの完成で言うと、岐阜市のインターチェンジは多分岐阜県内の中では一番遅いですから、他の市も真っ先に考えるのがやはり企業誘致です。岐阜市を選んでいただくための企業誘致を考えると、他と何が違うのかをしっかりセールスポイントとして持っていかないと苦労します。
・産業の伝統工芸品産業の支援ということで実は今、岐阜市でうちわを作っておられるのは1 軒だけです。うちわ自体は売れるのですが、うちわを支える材料などの仕入れ先が本当に先細りで、自分の代は何とかあるけれども息子の代にまでこれが続くかどうかというのを非常に危惧していました。先の見通しが立たないために継ぎなさいということがなかなか言えないということです。伝統工芸品産業の支援をどこまで岐阜市としてやれるのかを考えていく必要があります。お店だけをただ守ることではなく、その周辺のいろいろなものを含めて守っていく視点を持つことが、必要になってくると感じました。
・観光・交流で、インバウンドの方が年々増えてきて、その内訳は中国・台湾・韓国・欧米があり、その他の多くがインドネシア・タイなどのアジアが多いというデータでした。人数と同時に同じぐらい大切なのが、外国人の方々がどれだけお金を落としていったのかという視点ですが、そのデータがないのです。傾向で言うと、近い国の方というのは数は多いのですが滞在日数が短いです。遠い国の方は少ないかもしれないけれど、遠いほど長期間日本に滞在する傾向があります。ですからインバウンドの対策を考える場合は、戦略的に国別までを含め、考えていく必要があると思います。最後に、「長良川おんぱく」は私も毎年楽しみにしている者の一人です。長良川沿いに広がり、違うシーズンにも開催するようになってここ数年で発展しているなという感想を持っています。インバウンドの方にも使いやすいかたちで通訳の方が付くなど、言葉の問題などを解決していくと、岐阜独自のオリジナルだと思います。個人の参加型ですから、結構面白い材料になっていくのではないかと感じています。

〇分科会員
・先ほどのがんのところで働き方を柔軟にということがあるのですが、実はがんやそういったことだけではありません。女性や高齢者も何か「ねばならない」という、時間枠に収められるなど、働きたくても働けない女性や高齢者の人が多いです。定時までは職場に「居なければならない」ところがネックになって、技術や能力のある方を生かし切れていないというのが現状だと思います。午前中の休みで済む、お昼休みを挟んで 2 時間休みで後はしっかり働けるような方々がいる中で、そういった時間的制約のために働けない人です。今は、女性の出産年齢が上がってきています。そうすると育児と介護のダブルケアをやらなくてはいけ

ない人が増えてきました。女性だからこれをしなければならない、男性はこういうふうだという固定観念があり、何か型にはめられ、保守的な考えがずっと続いていますので、働きの現場に参画できない人が多いという意見をよく聞きます。行政の働き掛けもそうですけれども、受け入れる側の柔軟性を求めます。あなたに来てほしいから柔軟な対応をする企業が増えてきてほしいのが一つです。地域の貢献でも、働いている労働力のある人が参画しやすいというところがあります。まず考え方や、固定観念の部分を取り払っていただくような発信を行政もすると働く人たちも参画しやすいのではないかと思います。
・観光については、20 歳代から 30 歳代で一番皆に発信するような年代の人たちが、自分たちが住んでいる岐阜県や市町の素晴らしさを知らないことに愕然としました。一番の PR 部隊は個人だと思います。岐阜の魅力を知っていないために発信できないところがあると思います。個人がいかに岐阜を PR できるかスキルをアップさせるために、岐阜市の魅力を教える場が必要ではないでしょうか。他県に出張に行ったり、海外に遊びに行ったりしたときに「岐阜市はこれほど素晴らしいところがあるので、あなたたちも来てください」というように、自分たちが発信しない限りは向こうの人たちも興味を持ってくれないと思います。岐阜市民全員、県民全員、一人一人が PR 部隊、窓口だというような思いを持って PR をするのです。また、知ることによってうれしい、楽しいので伝えたいというのがあると思いますので、小さいときから自分の県はこのように素晴らしいという教育の部分や、青年層になると、住んでいる人たちがいかに市のことを知っているかというところが大きな鍵になってくると思います。外を教育する前に、まず地元の自分たち一人一人を教育するという部分で観光は生きてくると思います。

〇分科会長
・欠席の委員から意見をもらっていますので、事務局から紹介いただければと思います。

〇事務局
・まず産業について紹介させていただきます。
1 点目は、中小企業における生産性向上の必要性について、成長力の強化においては女性や高齢者が社会で活躍をし、能力を十分発揮することや労働力率の向上が求められます。女性の活躍には子育てを支援する体制の充実が大切で、高齢者の活躍には知識や経験を十分生かせる体制作りが必要です。地元企業への再就職の促進も必要です。地元のことをよく知り、幅広い知識や経験がある管理職経験者は多く、経営のできる人材としても地元にいる人材の活用が良いと考えます。そのためには民間を中心に人材の流動化や斡旋のモデルを作る必要があります。生産性向上に向けては効率化、省力化に向けた設備投資が必要となりますが、中小企業は人材不足、後継者問題などで新たな投資に慎重になっているケースも多いです。また、IT 投資は生産性向上に不可欠であり、使いこなせる人材教育に向けては自治体や金融機関、大学などが協力体制を築く必要があるといった意見でした。
・2 点目、中小企業の経営基盤の強化や経営者の後継者不足に対応した事業承継が必要です。中小企業の事業承継は都市圏では代替産業が起こり新陳代謝は進みますが、地方ではそのよ

うな循環が起きづらいです。その点からも単に事業を承継するだけではなく、経営に携わる人材を強化し新たな投資や採用を通じて競争力を高めることが重要です。また、チャレンジ精神のある従業員への承継や若い起業家の育成が必要と感じて、より実践的な育成、支援を行っていく必要があります。
・農林水産業について、今後の農業を考える視点とともに 2 点のご意見です。
まず、今後の農業を考えていく視点の柱は人、いわゆる担い手、農地、そして食を守ることであります。1 点目は、耕作放棄地の拡大に関する農地の集積、集約の必要性につきまして、40 代の農業従事者が田畑を借り仲間を誘って生産も上げ、収益も上げています。このように、工夫次第でもうかる農業にすることが可能です。一方で、離れた農地の集約、整備は簡単にはいかない実情もありますが、攻めの農業として、農地を集約した農業、園芸団地という発想もあっても良いのではないでしょうか。また、岐阜市の農業の特徴の一つである都市農業を進める上で、固定資産税の在り方も課題です。
・2 点目の、後継者不足に対する新たな担い手育成の必要性につきまして、子どもが農家を継がないため後継者不足になっており、その理由はもうからない、労働形態や休暇の不定期などが挙げられます。そこで、稼ぐ農業の実現に向けて、農家・行政・JA が連携したブランド化など高付加価値商品の創出の他、農業の効率化として担い手、農地を確保するといったことも必要です。とりわけ担い手育成に向けては、若い頃から農業に従事するような教育が必要で、職能教育のさらなる推進あるいは規則的な休暇制度や外国人の活用も考えられます。
・その他、まちの分科会に関する防災分野について、災害時の助け合いを円滑にするためにも隣近所との付き合いが一番基本です。
・2 つ目に、災害が身近に迫っていることを感じてもらうため、過去の災害の教訓を伝えることや地域の防災訓練をしっかり実施していくことが必要です。消防団、水防団の若い担い手が少ないことが課題です。これらのご意見は、次回のまちの分科会でも紹介をさせていただきます。

◆事務局より資料④（活性化、市民交流・協働、多文化共生・国際交流）に基づき説明
◆意見交換

〇分科会長
・事務局から欠席委員のご意見をお願いします。

〇事務局
・1 点目ですが、中心市街地の魅力づくりの必要性について、中心市街地への居住、集客が弱くなっていますが、高齢化社会への突入で生活の利便性を考えざるを得ない時代になると、本市の中心市街地への居住選択が増える時代が到来するのではないでしょうか。そのときに本市を選んでくれる積極的に住み替えてくれるまちづくりが必要です。また、岐阜市は県都であり名古屋市も近く立地的に恵まれ、中心市街地は鉄道やバスなどの交通結節点として利

便性が高いです。中心市街地だからこそ可能なことに集中投資していくまちづくり、特に高齢者がまちなかに出掛けることができる公共交通の整備が必要です。
・2 点目に、中心市街地における商業の振興の必要性について、中心市街地で求められるものは公園・学校・食・医療だけでなく商業、店舗であります。商業があってこそ買い物ができて人が集まり、まちの魅力につながっていきます。店舗のことですが、商店街はそれぞれの店舗が個の魅力を持ち、歩いた先に思わぬ新しい発見があるなど、合理的で整然とした大型商業施設では感じられないまちの魅力があります。最後に、コンパクトシティを進める上では生活の利便性という観点から中心市街地に商業がなければなりません。

〇分科会員
・農林水産業で、製薬発祥の地として岐阜市は薬用作物を使用した薬膳・薬草・健康食は新たな担い手の創出になると思います。約 20 年前に薬草の栽培・薬膳料理・薬草染め・薬草の健康食品などいろいろな分野でにぎわいました。
・地産地消は地元の農産品を消費することにより経済効果、生産者に関する情報が得やすく、より生産者と消費者が近い関係にあること、すなわち地域経済の活性化、地域への愛着につながると思います。
・観光・交流は地域活性化、経済効果を期待できる一番近い位置です。岐阜市は確かにサービスと観光のまちです。信長により数百年前に平和と文化のまち、岐阜と命名されました。岐阜公園に中国庭園、友好庭園があります。周りに石碑など近代の遺跡もあります。この岐阜名所由来の観光スポットは周りの中国庭園、近代遺跡などとぴったり合います。どこにもない唯一の歴史文化の観光地になると思います。単なる城と公園は日本にはどこにでもありますので特徴を出さなければならないです。

〇分科会長
・観光と中心市街地の活性化は非常に大きなつながりがあるかと思います。中心市街地をどのように位置付けるかです。居住している方々のにぎわいの場とすることも必要ですし、一方で外から来られた方が様々な体験をしてくれる場としても非常に大事です。やはり交通の要衝になる駅を中心としてどういう動線で中心市街地と周辺を結び付けるかというのが、都市計画上は非常に大事になるかと思います。柳ケ瀬も、私が岐阜に来たばかりの頃は土日にもう歩けないぐらいだったのですが、今は土日でも人がまばらで非常にさみしいと思っています。都市全体については、住民の人たちがどのように考えるかということもあり、さらに、高齢者の交通機関ですけれども、先日もバスに乗っていて高齢の方が自分の車椅子で乗り降りをしていましたが非常に大変です。一口に公共交通機関が充実すれば高齢者が行き来できるかというと、そうではないように思います。大学の取り組みがあったのですが、2 人乗りの電気自動車を高山で実験的に走らせているようです。場合によっては各コミュニティに、そういったレンタルで高齢者の方でも安心して行き来できるような移動手段を確保してあげると違うと思います。人の動きやそういったことについて今後はいろいろな面で変わってくると思いますので、そこを進めていく必要があるかと思います。周辺で作った農産物を中

央に持ってくることも大事になってきますし、新しい時代に向けた取り組みが必要かと思います。やはり中心になる柳ケ瀬の再開発というのが、現実的には難しいところがある中で、まちの在り方自体も変えていく必要があるかと思います。活気を持たせるということがあるかと思うのですが、その中心になるのが多分、市民交流・多文化共生・国際交流かと思います。

〇分科会員
・多世代交流をしていく中、今までの交流は働き世代、生産者世代が高齢者の方または若年者の方に対して何かサービスをする、面倒を見る、守るというかたちでした。そうではなく小さい子が高齢者の方のために何かをする、高齢者の方が働き手の方々に何かをするといった守る側の人と守られる側の人が場面によって逆転するような、これからは多様性が一番多世代交流として望ましいのではないかと思います。未来ビジョンでは多世代交流や市民活動の中で若い人はこういうことをしてほしい、高齢者の方はこういうことで市民活動、市民交流で協力してほしいという世代ごとの役割をしっかりと書いてもらうと良いと思います。
・活性化についてですが、JR 岐阜駅周辺から柳ケ瀬が中心になるのは仕方がないかと思いますけれども、駅周辺または中心市街地の自動車駐車場は週末イベントをすると満車になるのです。これ以上、活性化やにぎわいを創出しようとすると、やはり公共交通の充実に頼らざるを得ないと思います。JR 東海道本線沿いから JR 岐阜駅は来やすいため来てくださいで良いと思いますが、東海道本線の通っていない県内の関市や美濃市・多治見市・土岐市・可児市など岐阜市に出るより名古屋市に出たほうが近いですし、早いです。このにぎわいや集客を目指す上で、このまま放っておいて良いのでしょうか。この点は公共交通、高速バスでも良いですし、高山本線の増便でも良いですが、ぜひ充実をして周辺から呼び込むということで検討をお願いしたいと思います。名古屋から呼び込むと聞きますが、名古屋のほうが魅力あるまちになって、そちらから呼び込むというよりは、岐阜市周辺の都市からどう呼び込むかを、ぜひご一考いただければと思います。

〇分科会員
・柳ケ瀬やこの周辺を市民のための場所になると良いと考えています。商業施設だけではなくて、これからは市民の人たちが大いに集まれる場所づくりに特化すると良いと思います。そこで岐阜の良いところが発見できますし、学べます。それが子どもから大人、お年寄りまで市民がそこに行くと楽しい、勉強になるということです。中心市街地が商業施設という概念を見込んでお仕事をしてお店をしてくださる方は良いですし、空いているところなどは新しい若い人たちの今やっているようなことも良いです。柳ケ瀬がいろいろなものを呼び込んだ市民のための活性の場所になってほしいと思います。

〇分科会員
・名古屋、愛知県で働いている人は岐阜に帰ってきても、もう店が閉まっている。何か買い物をしたくても、もう開いていないところが多いです。柳ケ瀬なども早い時間にシャッター

が下りているところが多く、帰り道に買って帰ることができない状態で、愛知県などで済ませて帰ってきてしまいます。できれば、土日だけではなく平日に立ち寄れる場所があったら助かると思います。つい郊外の夜遅い時間帯までやっている大型ショッピングセンターに行ってしまうこともあると思います。一部でも良いので立ち寄れるような、息を抜けるような場所になってほしいと思います。玉宮の辺りは愛知県から交通の便が良いですから、愛知県で飲まず岐阜に来て飲んで帰っていく人もいます。ですから、PR の方法しだいで玉宮の辺りは他県からの客を誘い込みつつ、市内の人たちが柳ケ瀬でゆっくりできるような場所として棲み分けできると、他に行かず身近なところで息抜きできます。

〇分科会員
・人口減少が現実的に起こる以上、やはり外から人を連れてくる。そうなると他県、あるいは外国人の話が今後、出てくると思います。いわゆる他県から来てここに住みたいという魅力を岐阜市に持たせます。それが先ほど言いました中心市街地の活性化かもしれませんし、いろいろな観光になるかもしれません。同時に多文化共生で、例えば外国の方が来たときに、我々がどう接するのでしょうか。意外と子どものほうがそういう部分では素直に受け入れる。我々の時代には学校に外国人がいることは全くなかったわけですから、我々の意識、大人世代の意識の変革です。この多文化共生は教育などの分野だと思いますし、働き手との絡みの中では課題になると思います。

〇分科会員
・多世代交流や市民活動などは防災と併せて、一緒の分野でも良いのではないかと思います。これを多世代で助け合っていくという方向で、ひとつ検討をしてもらったほうが良いのではないかと思います。

〇分科会員
・地震などのような突発的な災害は日中に起きる場合もあり、親が職場に居るとき、子どもがもし地域にいたときに子どもだけ置き去りにされる。保育園や小学校で預かってもらえると良いのですが、その後に何らかの震災があって自分たちが帰宅していないときに子どもだけが被災してしまうと怖いです。地域とのつながりは大事ですから、行政もそこを少し何か配慮していただけると安心して働けるのではないかと思います。

〇分科会長
・農業のところで放棄地が多いという話がありましたが、その中で出てくるのは集約化だと思います。まとまって広い土地がないといけないのではないかという思いがある。耕運機の会社があるのですが、そこでは IT を活用して小さな単位の分散する田んぼにカメラを全部付け AI でいつ頃、どこに作業に行くと一番効率が良いかというシステムがパッケージでもう売られているらしいのです。分散している農地を非常に有効に使って 1 人か 2 人でメンテナンスができて、収益をかなり上げているところもあるようです。これからは、必ずしも 1

つの区画で広い土地が必要ではなく、分散していてもシステム上はうまくまとめて活用すると農業としては成り立つようです。例えばグループで作って適切な時間に適切な場所で作業をすると、集団で分散した土地を有効活用できる時代が到来しています。農業についても新たな観点から見ると良いと思います。
・公共交通機関では、駅から柳ケ瀬など一定の区間は乗り降り自由にすると、一旦降りて買い物をして再び乗ることが容易になります。これまでのバスの収益を変化させず、柳ケ瀬の辺りで買い物をしてもらうことにつながるのではないかと思います。いろいろな観点から進めると意外に面白いのではないでしょうか。このように実際に生活している方の意見はすごく大事だと思いながら聴きました。
・部分的な有休の取り方も、非常に重要と思います。お昼や午前中のちょっとした時間に家のことをして、また仕事に戻れます。今は必ずしも職場にいなくても仕事ができる部分もありますので、柔軟な考え方をするのが必要かと思います。柔軟には考えるけれども、やはりそれがきちんと根拠に基づいているかどうか確かめることで実効性のある立案になると思いました。行政課題についても様々な意見が出てくると思いますが、根拠が見いだせるのでしたら説得できると思いますので、そういった観点からも進めると良いかと思います。
・社会全体も、非常に大きな変革のときにきていますので、少子化、高齢化に向け市民全体として岐阜市が活性化して活気があるまちにするということを自分の問題だと認識できると良いかと思いました。

６　閉会